

# 民泊のすゝめ

19T5061D 和田 一樹



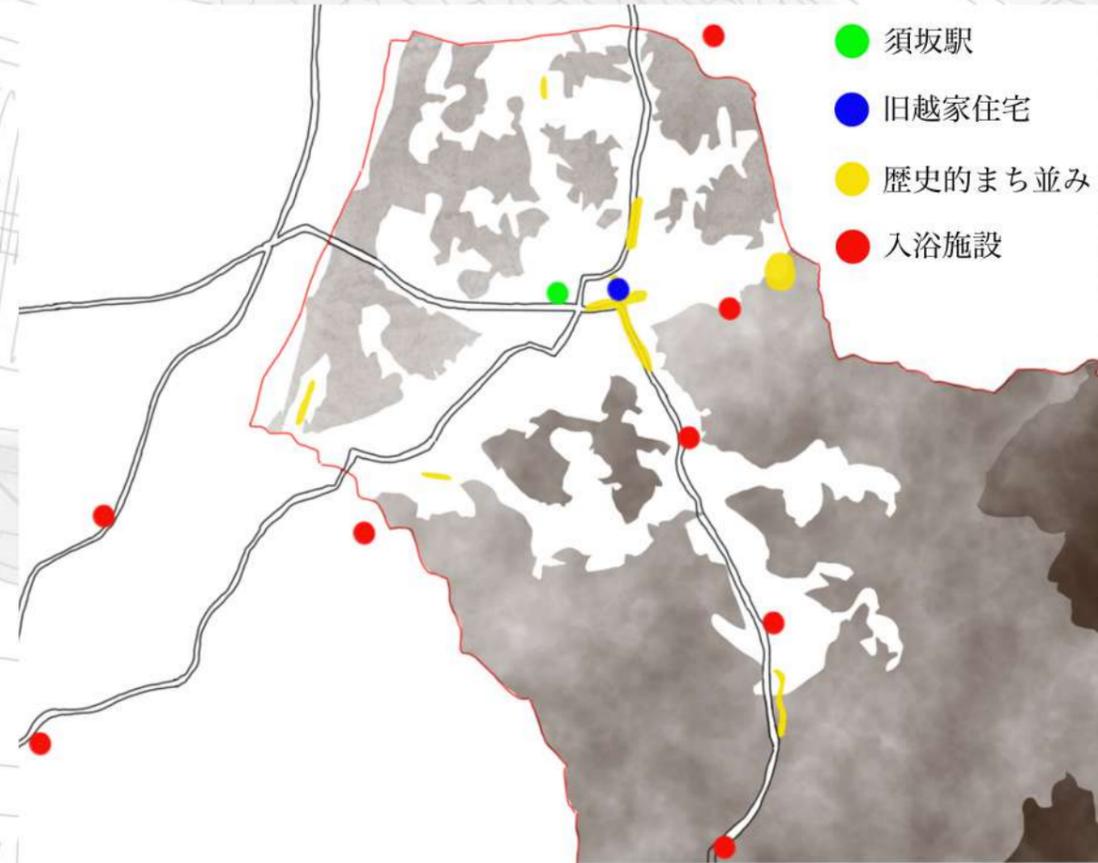
## 設計趣旨

須坂の土蔵造りの町屋には、デザイン面だけでなく、伝統的工法や仕上げの技術など学ぶべきものが多く存在する。その須坂の民家の良さをより深く伝えるには、そこで生活してもらうことが一番だと考えた。そこで今回は、土蔵の保存と活用を行いつつ、民泊ができる住宅として再生する。地元の方たちとの交流を深め、須坂を魅力的な町として紹介してもらえらるきっかけになるような設計を目指す。

# まちの現状と旧越家住宅

## ～ミセの復活～

須坂は通りに面して建物が建ち並ぶ町屋の景観が広がっている。瓦葺きの切妻屋根がまち並みに統一感を生み出しながらも、様々な勾配と高さをもつことで建物ひとつひとつに個性を与えている。一方で、旧越家住宅は道路に面する部分も塀で囲われており、須坂のまち並みとは反対に内に閉じてしまっている。そこで、増築によって町屋としての立面とミセの復活（カフェの導入）を行い、塀を取り払うことで、須坂のまち並みと調和した計画とする。



## ～銭湯～

民泊を行うにあたり、民泊者の入浴場所が必要になるが、旧越家住宅から周辺の入浴施設までは最低でも歩いて片道20分はかかる。また、須坂駅周辺にはこのような入浴施設は存在しない。

↓  
旧越家住宅に銭湯を導入し、地域に開放することで、民泊における入浴の問題は解決され、さらに民泊者と地域住民の交流の場になる。

↓  
土蔵を銭湯にすることで、土蔵の新たな活用方法を提案する。

# 家族構成



祖父・祖母  
民泊のオーナー

父・母  
カフェと銭湯の経営

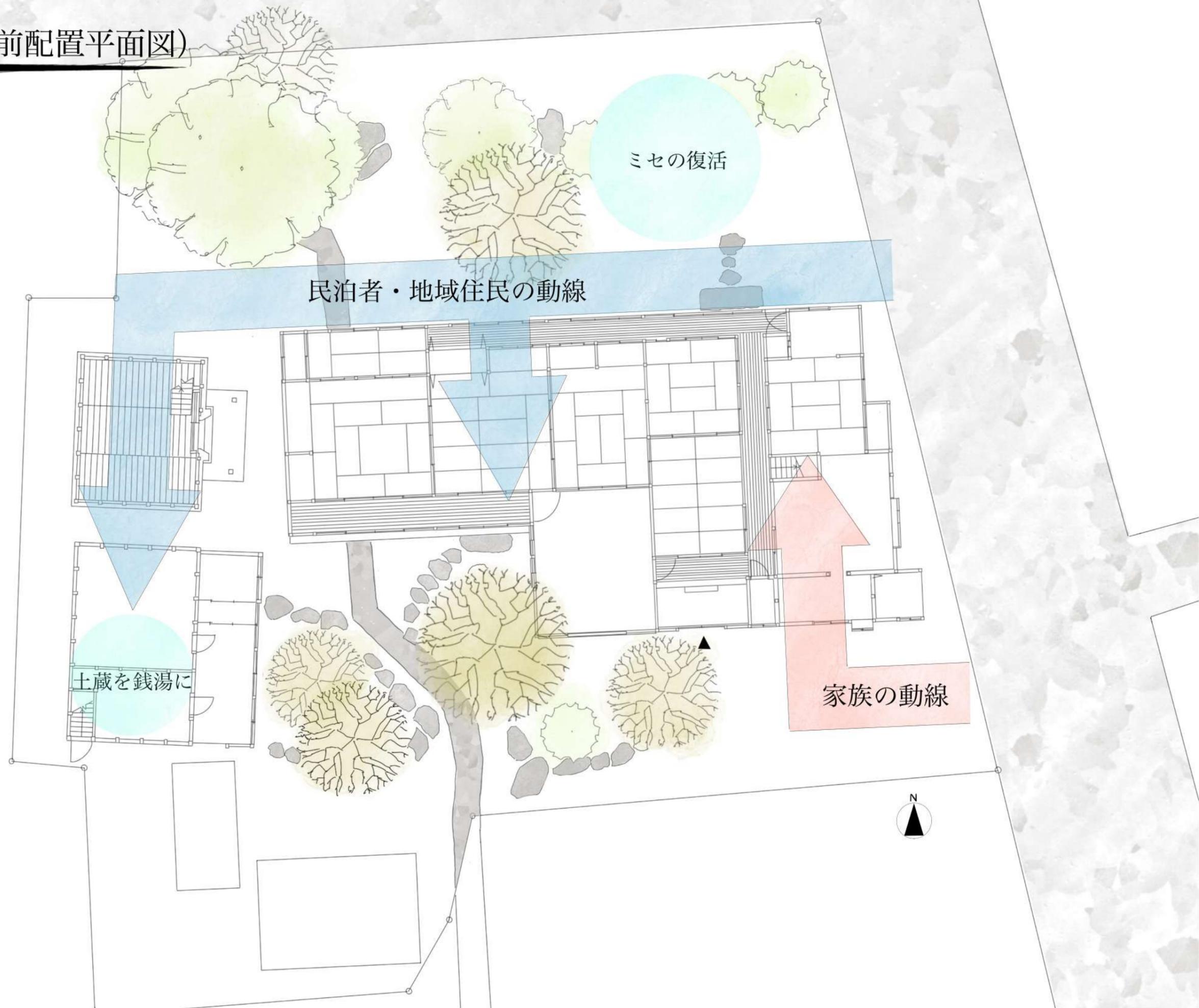
娘・息子  
学生

# 民泊者

長期滞在を想定し、働いて収入を得ながら、地域の人との交流の場や学びの場などを通して須坂との関わりを深める。  
業務：カフェや銭湯の運営、須坂のリンゴ・ブドウ農家の手伝い、須坂の紹介サイト・PR動画の作成など。



# 動線計画 (再生前配置平面図)



# 増築・減築部分 (再生後配置平面図)



既存 増築 減築

東立面図 (S= 1 / 6 0)



西立面图 (S=1/60)



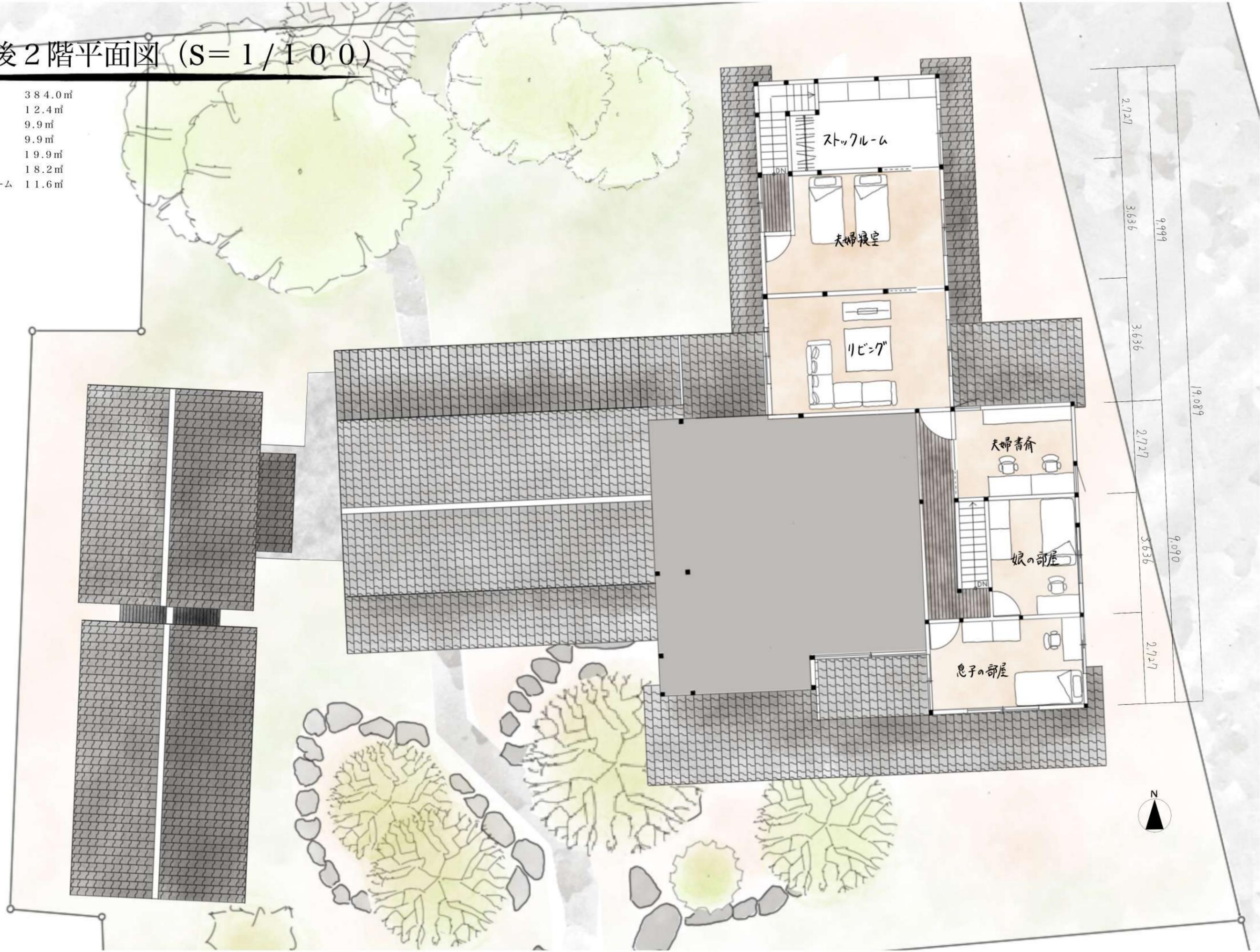
# 再生後 1 階平面図 (S= 1 / 1 0 0)

構造	木造一部RC	ランドリールーム	5.0㎡
建築面積	331.8㎡	祖父母寝室	9.9㎡
延床面積	427.8㎡	祖父母書斎	9.9㎡
1階面積	331.8㎡	リビング・ダイニング	23.2㎡
カフェ	47.2㎡	キッチン	24.8㎡
浴室	4.1㎡	民泊者の部屋	16.6㎡
脱衣所	2.5㎡	銭湯利用者の休憩所	45.5㎡
洗面室	3.3㎡	脱衣室	24.8㎡
		浴場	33.1㎡



# 再生後 2階平面図 (S=1/100)

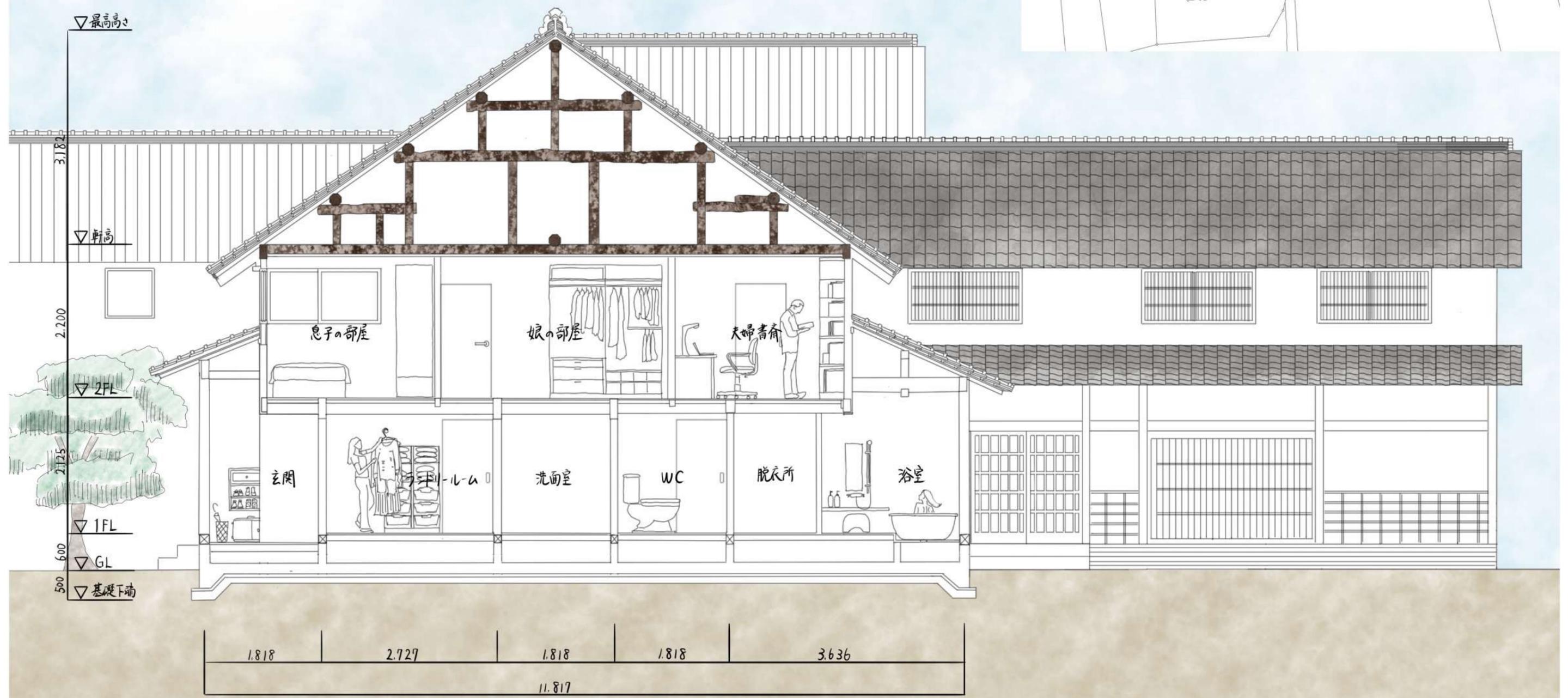
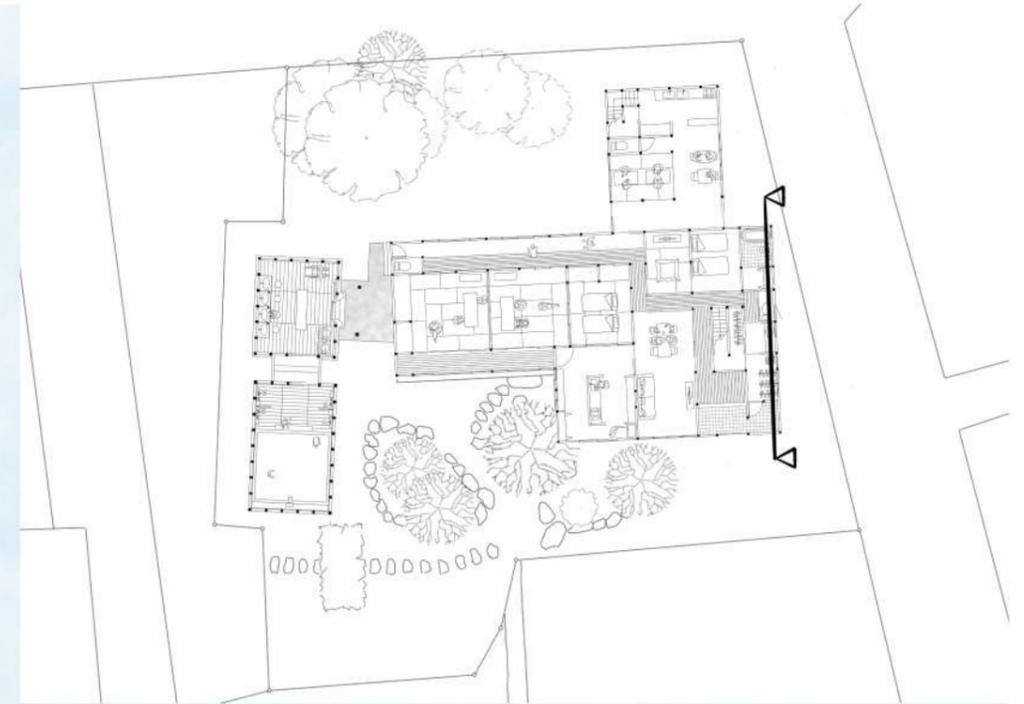
2階面積	384.0㎡
息子の部屋	12.4㎡
娘の部屋	9.9㎡
夫婦書斎	9.9㎡
リビング	19.9㎡
夫婦寝室	18.2㎡
ストックルーム	11.6㎡



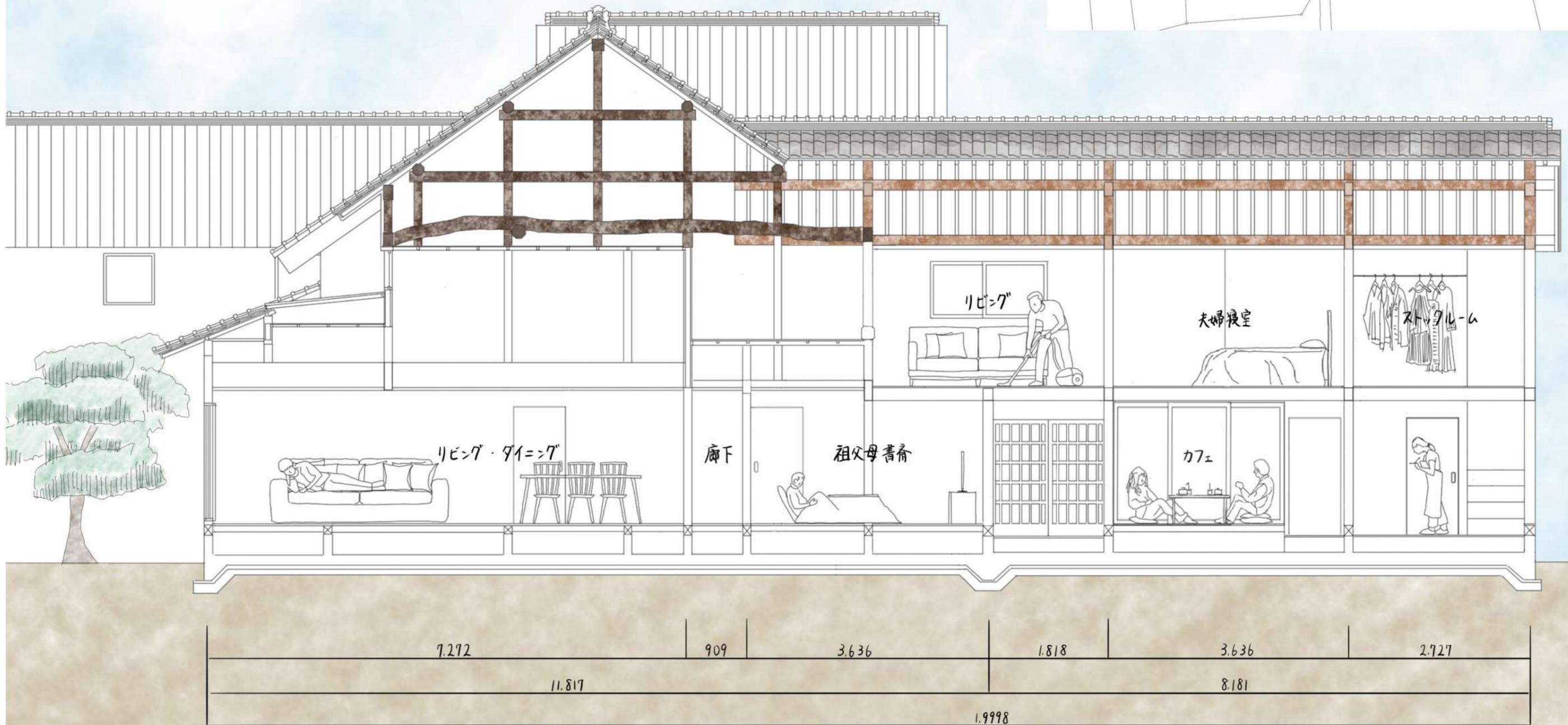
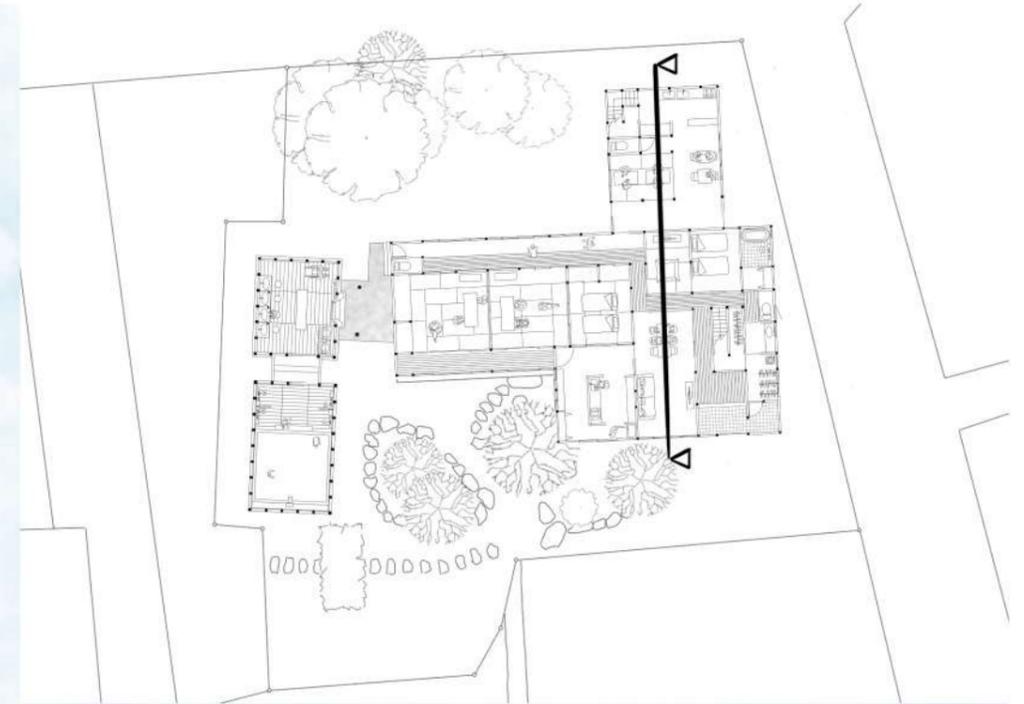
2,727	3,636	9,999
3,636	3,636	19,089
2,727	3,636	9,090
3,636	2,727	9,090
2,727		2,727



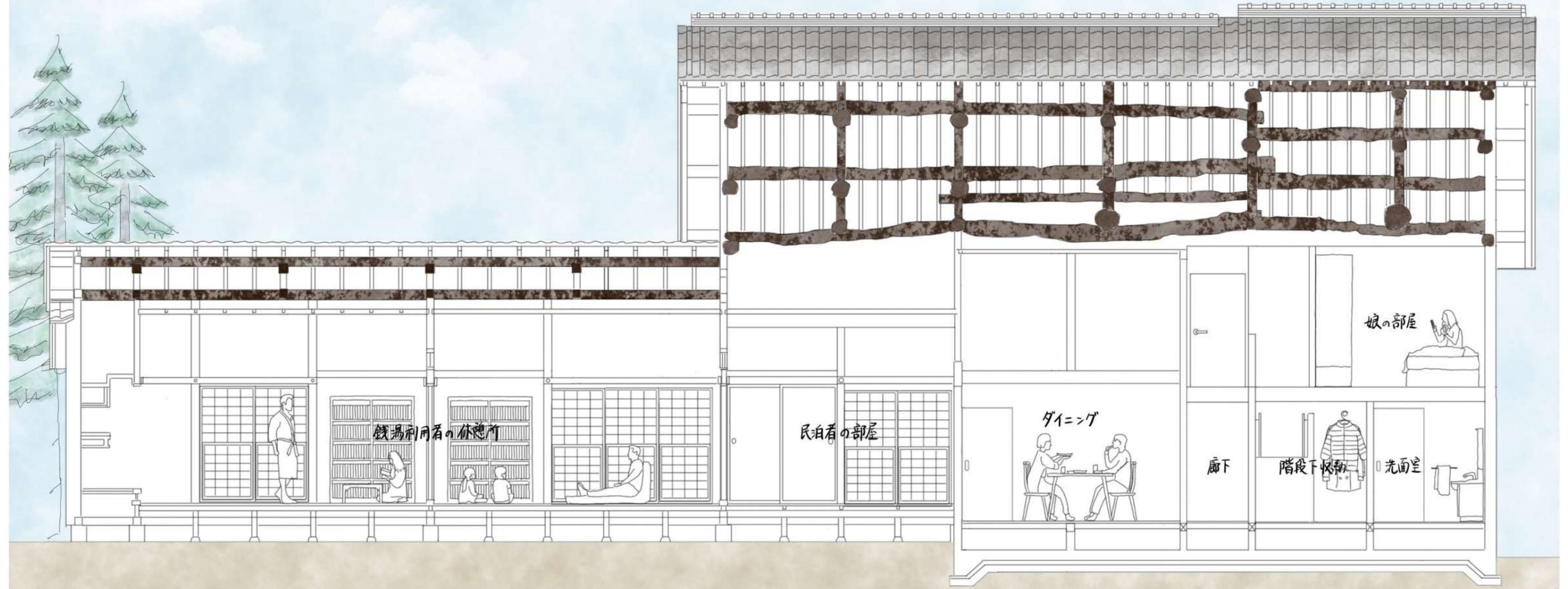
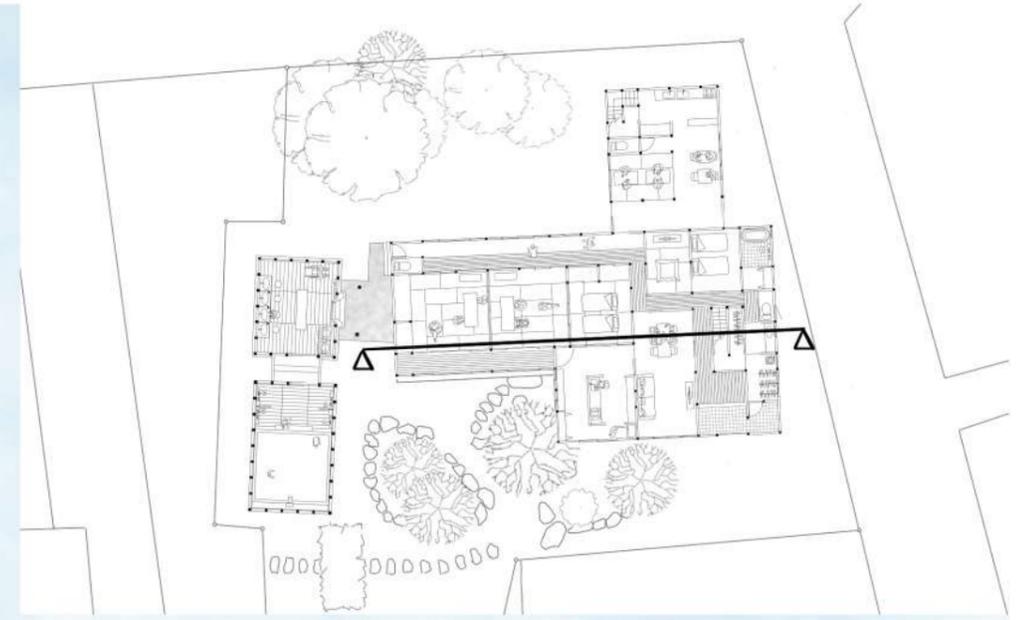
# A-A' 断面図 (S=1/60)



# B-B' 断面図 (S=1/60)

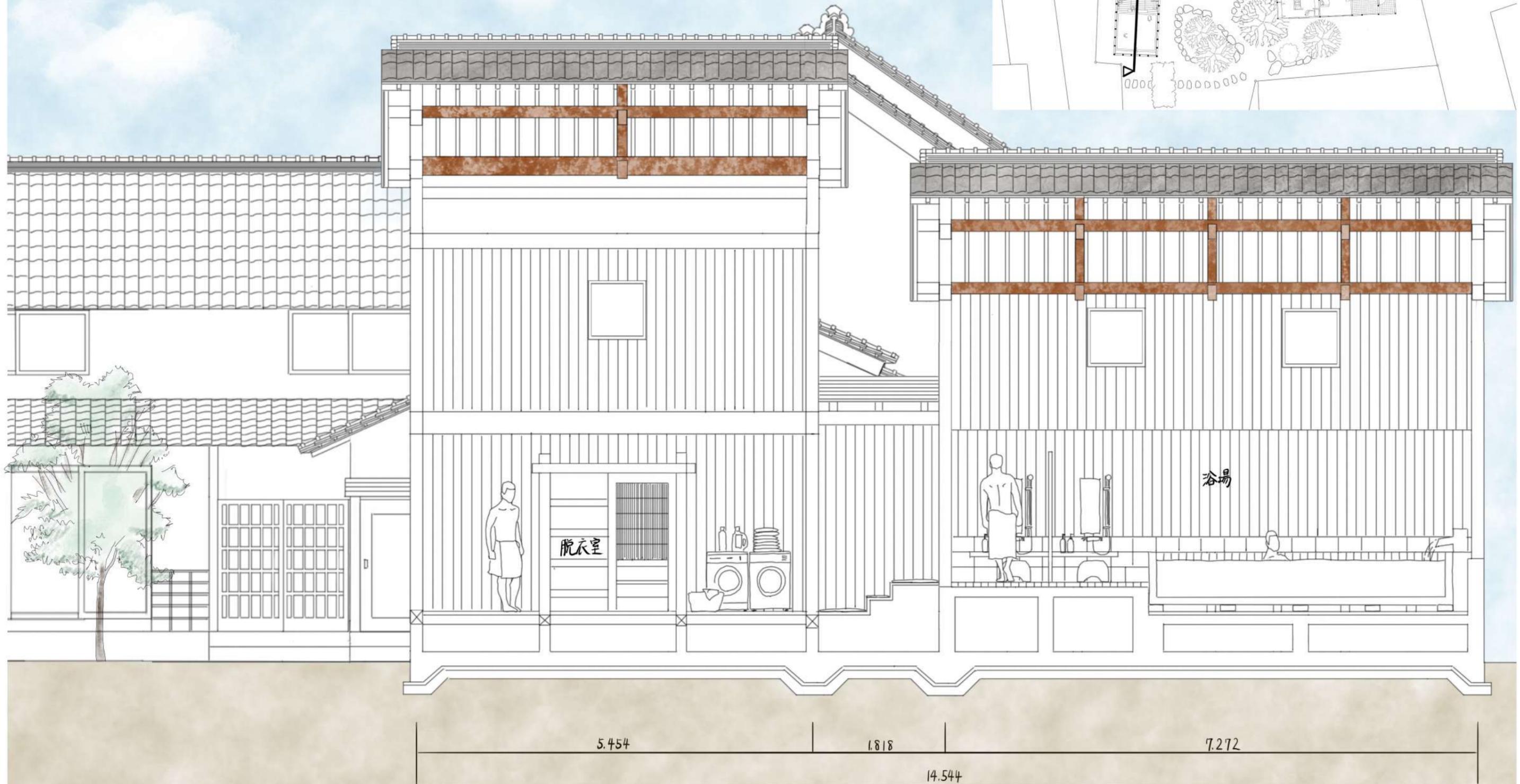


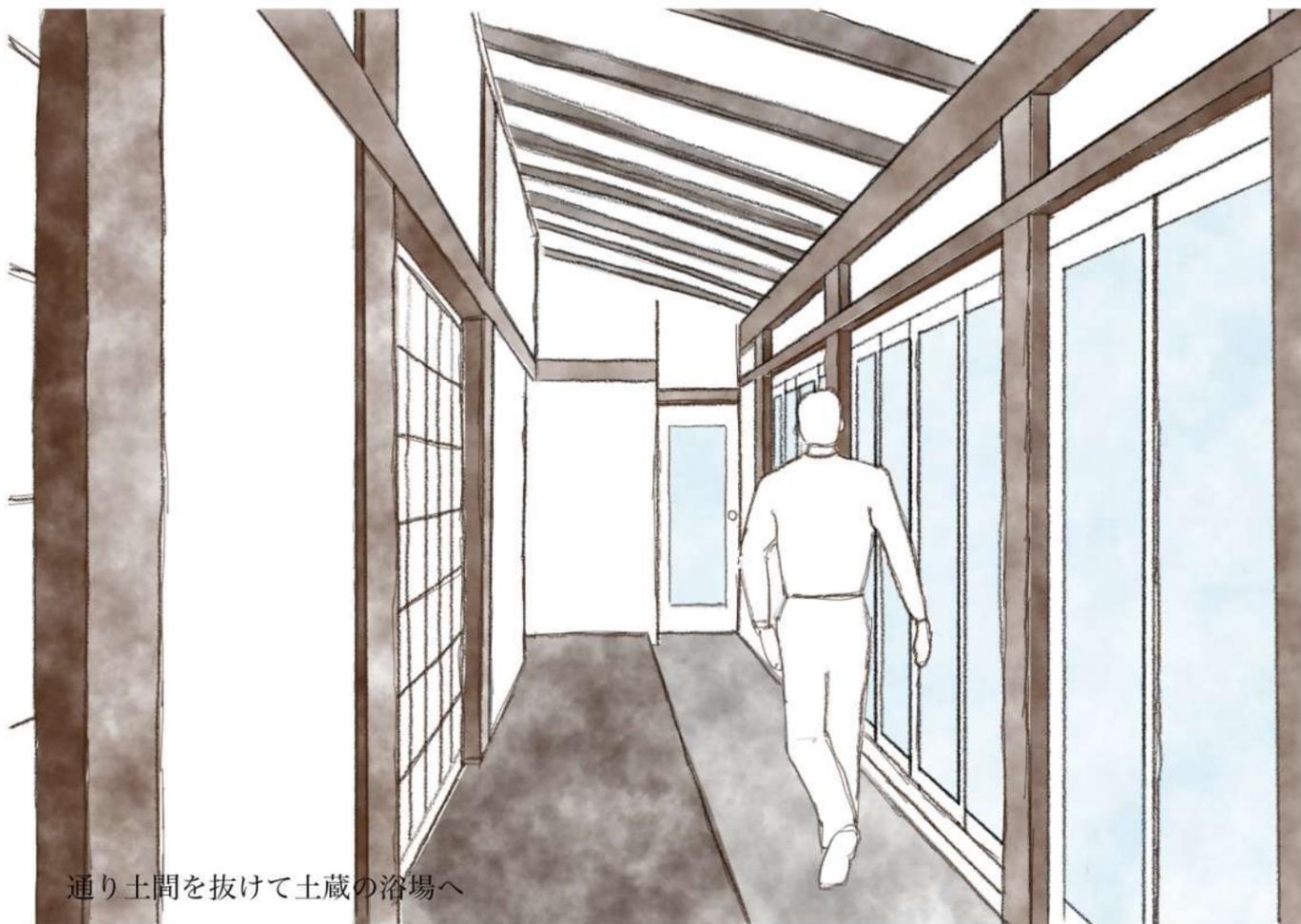
# C-C' 断面図 (S= 1 / 6 0)



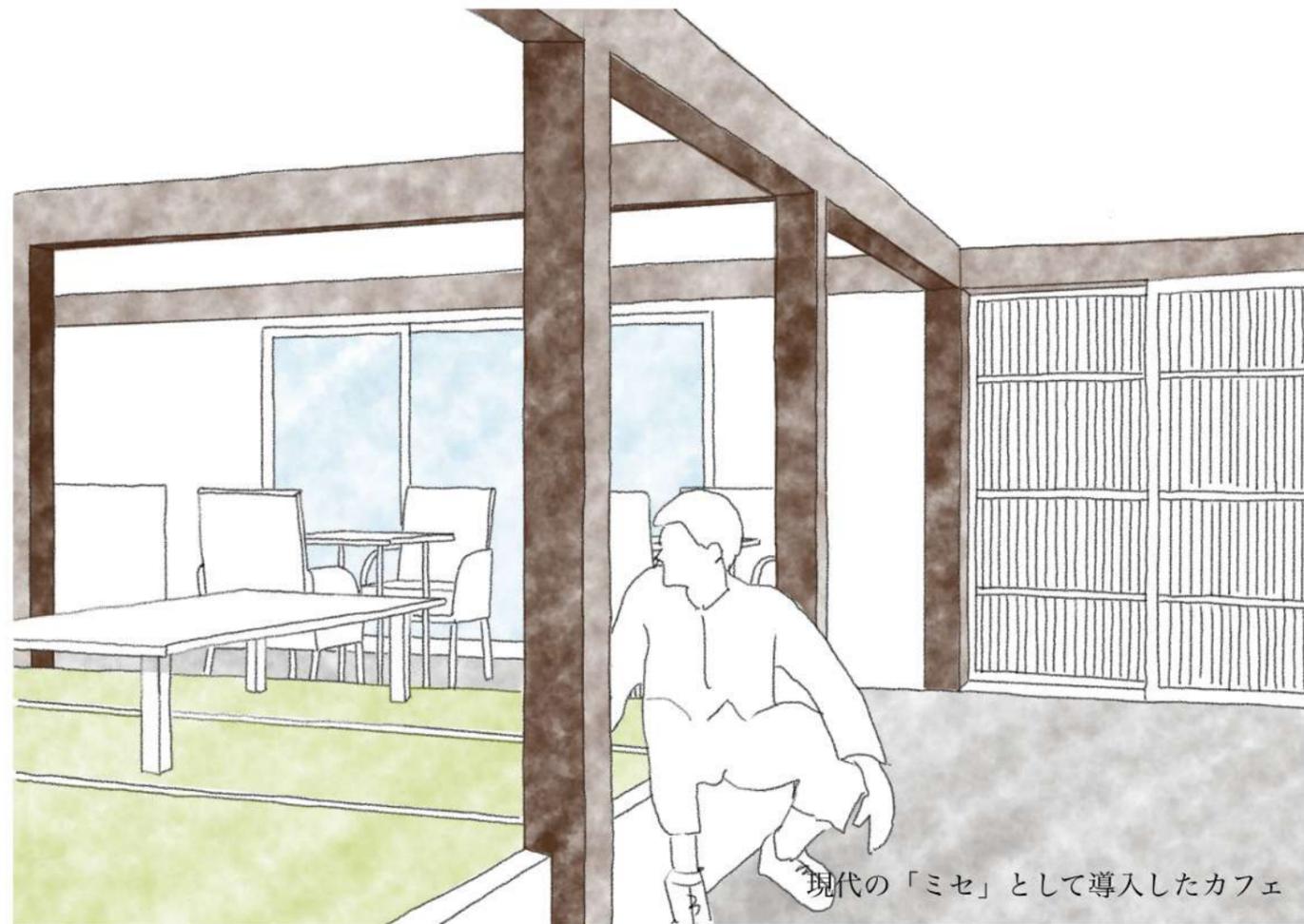
5.454	4.545	3.636	3.636	909	1.818	1.818
13.635			8.181			
21.816						

D-D' 断面図 (S=1/50)

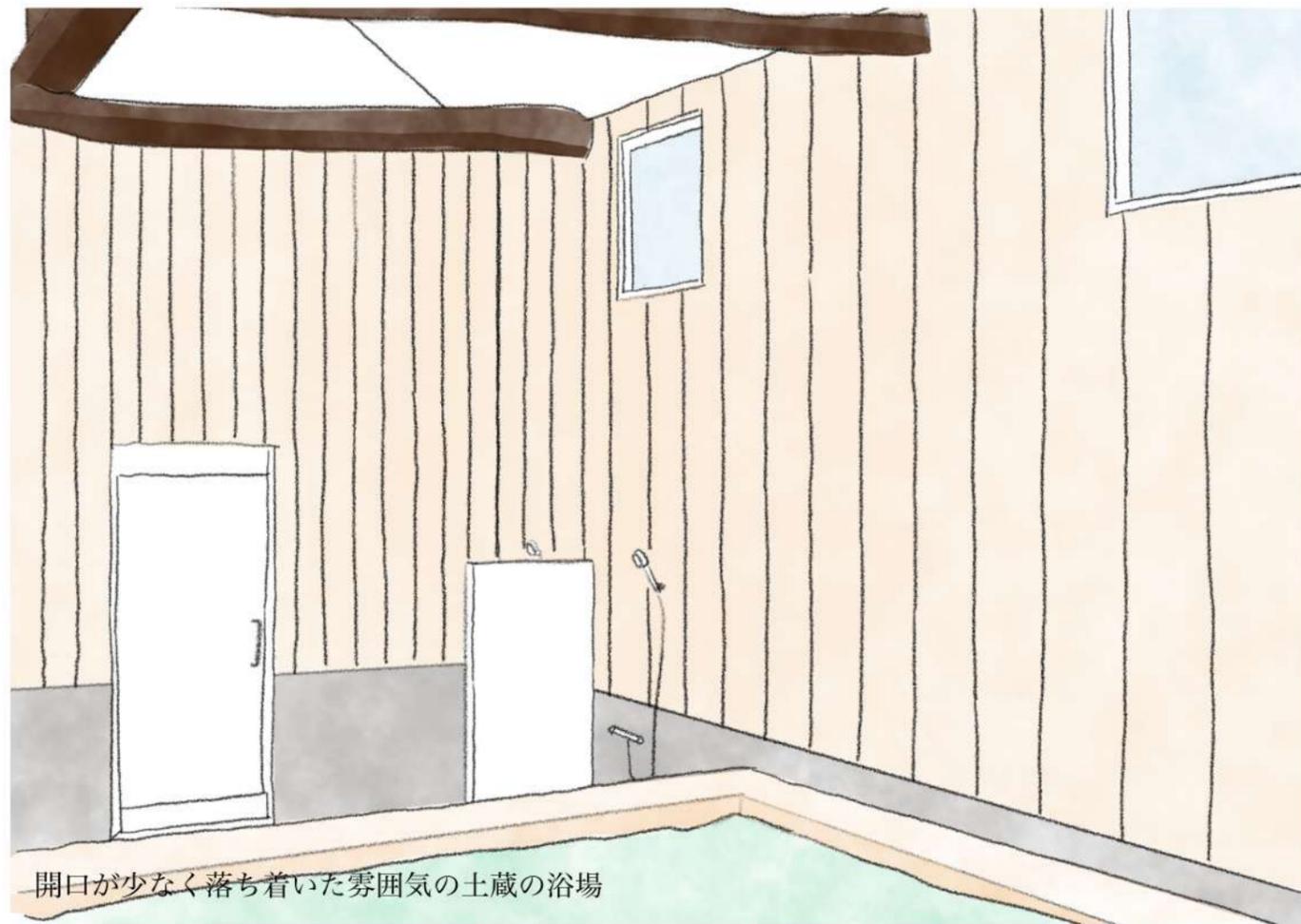




通り土間を抜けて土蔵の浴場へ



現代の「ミセ」として導入したカフェ



開口が少なく落ち着いた雰囲気土蔵の浴場



座敷は既存の姿を保ち、休憩所として活用する